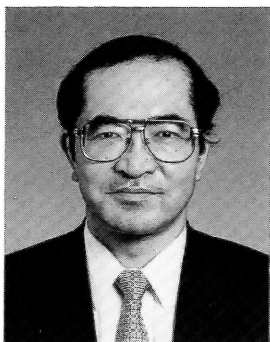


年頭所感



所長 原島文雄

Fumio
HARASHIMA

新年おめでとうございます。皆様方にはよいお正月を迎えられたこととお慶び申し上げます。

生研は、「多事」ではございますが、力強く一步一步将来に向けて前進しております。所長の任期も終りに近くなり、大学あるいは研究所というものについてゆっくり考える機会が増えています。生研は、研究者の個性と独創性を尊重する組織として先輩方が築いてこられた伝統をさらに発展させております。教職員・学生さらには客員として滞在中の多くの研究者がそれぞれの立場からお互いに尊敬しつつ、1つの組織体を構成している生研は、いわゆる「自立分散システム」の1つの理想形と言っても良いでしょう。生研の全ての構成員が、基本的な価値観を共有し、お互いに尊敬しあうとき、その組織は、おだやかな、しかも、力強い発展をすることができると感じております。

生研の構成員の大部分は戦後生まれです。この50年間少なくとも日本を含めた先進国はお互いに物理的戦争を放棄してきました。そして、生研の構成員の大部分は、戦争のない社会に、かつ豊かな社会に生まれ育った方々です。「先進国に追い付き追い越せ」を科学技術の目標としてきた世代は消えつつあります。最近、若者の理工系離れがよく言われますが、大人の古い科学技術に対する価値観からみると若者の理工系離れは当然のことと思われまます。生まれたときから当然のように自動車、テレビ、パソコンなどがある環境で育った世代の科学技術に対する価値観は急激に変わっています。彼等は、物理的戦争のみならず、相手の人格を否定するような精神的戦争をも放棄しつつあります。このような社会においては、知的好奇心こそが科学技術を人類の共通の文化として花開かせるものと思います。科学技術は、人類の物質的生活の向上のためだけでなく、人間ひとりひとりがその創造性・独創性を楽しむ場として発展するでしょう。芸術・文学とならぶ20世紀後半人類が発展させた最大の文化として後世に残るものと信じます。

いうまでもなく、生研は工学に関する総合的な研究です。工学は、よく、“自然科学の応用”と言われます。私からみると、工学は、人間の創造性・独創性の場であり、自然科学を道具として使っています。テレビや自動車は、自然科学の原理を使っていますが、自然は何十億年かかってもテレビやラジオは作れません。人間の意志と感性が造り上げたものです。マルチメディアにいたっては、テレパシーの世界を自然科学の原理を使って造り上げているとしか思えません。工学を「人間の意志と感性を自然科学を道具として表現する学問」と考えると、工学の研究をライフワークとしたことに心から喜びを感じます。

昨年の年頭所感にも書きましたが、

“生産技術研究所は、優れた頭脳と良き市民の集団であり、社会がこの存在を誇りに思っている”

このような生研になりたいと思っています。浮世離れしたことを書きましたが、正月に免じてお許しください。今年もがんばりましょう。